

[038] 経済學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4403570>

出版情報：経済學研究. 38, 1973-03-31. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：



序

昭和45年3月、われわれが副田教授の還暦をお祝いしてからすでに3年以上たった今、ようやくこの記念論文集を先生にささげることができるようになった。

副田満輝先生は、われわれの学部の前身である法文学部経済科の第5回の卒業生である。先生は卒業後、直ちに法文学部副手として研究生生活に入られたが、やがて小島経済研究所を皮切りに、鉄鋼聯盟など各種の調査・研究機関を遍歴され、さらに昭和17年以降は軍籍に在って、一兵士として各地を転戦され、筆舌に尽し難い辛酸を嘗めて、昭和22年ようやく復員されたのである。以後再び学研究生生活に戻られて、昭和23年、本学助教授となり、同31年、教授として経営学講座担当、また41年には経営労務論講座を担当されることになった。このように、どちらかといえば迂余曲折を経てこられたにも拘わらず、否むしろその故にこそ、社会学者としての先生は、人間存在の本質に対する深い洞察を示される。

先生の学問上の業績は多岐にわたっているが、とりわけ経営労務という、それ自体は現象的技術論的な素材を扱いながら、そこに現われている錯綜した人間諸関係をいとも鮮やかに本質的關係の光のもとで解明される手並みは余人の追隨を許さないものがある。

先生はまた学内においては経済学部長の要職を二度勤められ、学外にあっては福岡県地方労働委員会の会長代理の役を果されるなど、社会的活動の面でも活躍された。

このような先生の豊かな学識と豊富な経験、そして寛容の中にも厳しさを秘めた研究指導によって、多くの有為な人材が先生の許を巣立っていったのである。

本来ならこの記念論文集は、還暦のお祝いの時、せめて先生の九大御在職中に刊行して差し上げるべきであったのが、とうとう御退官への餞けともなってしまった。深くお詫び申し上げる次第である。

幸い先生には近年ますます御元気のようにお見受けする。今後ともいっそうの御活躍をお祈りするとともに、変りない御指導と御鞭達をお願いする次第である。

昭和48年9月

九州大学経済学会長

秀 村 選 三